

福嶋の墓地にて

福嶋の墓地は何時ごろ出来たのか。

明治四年（一八七一年）、時の加賀藩主、前田慶寧が金沢を出て東京に転居しました。

その五日後、薩摩から来た「内田政風」という人物が金澤県大参事として着任しました、現在の県知事に当たる人物です。

この人は薩摩から来たと言う事は、加賀の一向一揆の子孫たちを、どう扱うかと言う事や、幕末に加賀藩の政治的旗印が鮮明でなかった事など勘案しての、人事でした。

翌年の明治五年に石川県庁を美川に移したのも、藩主の前田氏が、「おいてけぼり」にした前田藩士たちが「武家の商法」で失敗ばかりをして経済的にも騒然としたのが原因だとも言われました。

更に、内田知事の心配は、加賀の一向一揆の後裔である、石川県人の宗教的反抗であったと考えられる。

隣の富山も、福井も「神仏分離令」に物凄い反抗を示したが、石川の場合は、白山の頂上に安置してあった、十一面観音を下山させる事で終わりにしたため、宗教的混乱が発生しなかったと言われている。

内田知事は、折角移した「美川の石川県庁」を、たった一年で金澤に帰したのも、このような政治的考慮が、あつてのことでした。

この措置で金澤の武家たちは静かになったということです。

戦死者の墓碑を友人連名で
建てる美しい人情があつた。

